

(公社)富山県高等学校安全振興会

# 会報

第9号(令和2年12月17日)

〈発行者〉

公益社団法人 富山県高等学校安全振興会

〒930-0018 富山市千歳町1-5-1

富山県教育記念館

TEL 076-432-2810

FAX 076-432-1501



「高校生理解のための講演会」  
(雄山高等学校)



「子の自立を応援する親の関わり方」についての講演会  
(富山東高等学校)

## ご挨拶

公益社団法人 富山県高等学校安全振興会

理事長 堀井鉄也



本年6月より理事長に就任いたしました堀井鉄也です。日ごろより、富山県高等学校安全振興会が実施する、本県高等学校及び特別支援学校の児童・生徒等の

安全に関する事業にご理解とご協力をいただき、深く感謝申し上げます。

本会は、「わが子の安全を願いつつも、お互いの連携のもとに、助け合いを推進していく」趣旨のもと、平成4年に発足し、その後法律の改正に伴い組織を改変し、平成26年に公益社団法人に移行いたしました。児童・生徒の災害に関する共済金給付事業や安全教育の普及充実事業を行っております。

昨年度の給付事業では、511件 16,958,714円

の給付を実施いたしました。特に部活動中のけがや事故が多く、支払件数の大半を占めています。今後、生徒の安全・健康及び健全育成に係る助成事業と広報活動を行い、事故の未然防止に一層留意する必要を感じています。

また、安全普及事業として、各校の急な事故や病気に対応できるようにAEDを寄託していますが、本年に耐用年数(7年)がおとずれたことにより、7月にAED65台を更新いたしました。もしもに備えて各学校におかれては、AEDの設置場所の周知などに努めていただきますようお願いいたします。

これからも会員の皆様のお役に立てる会としてご期待に添えるよう、役員一同努めて参りますので、相変わらずのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 令和2年度定時社員総会について

令和2年度定時社員総会は、6月4日に開催する予定でしたが、コロナ禍のため、理事長提案に対して、書面で同意をを求める形をとらざるを得ませんでした。その結果、社員66名全員の同意の意思表示を得ましたので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第58条1項及び同法第59条の規定に基づき、当該提案を可決する旨の社員総会の決議及び社員総会への報告があったものとみなされました。社員の皆様には、期日までに同意書を提出いただき、ありがとうございました。

これにより、令和元年度決算(貸借対照表・正味財産増減計算書)、辞任に伴う後任理事・監事の選任について、原案どおり承認されました。

また、6月10日に第3回理事会が行われ、代表理事(理事長)に堀井鉄也理事が選定されました。

来年度の定時社員総会は、令和3年6月3日に、富山電気ビルディングで開催する予定です。

## AED(自動体外式除細動器) 65台更新

平成25年度に富山県高等学校安全振興会に加入している県内公私立高等学校及び特別支援学校に寄託したAEDの耐用年数(7年)が経過したため、今年度AEDを更新しました。

7月2日に県庁で贈呈式が行われ、堀井鉄也理事長が石井隆一知事と河合敦夫県私学振興会理事長にAEDを手渡しました。

今回更新したAEDの耐用年数は8年です。児童・生徒の健康・安全確保に役立てていただければと思います。

なお、AEDは毎日セルフチェックを行い、異常があればメールでお知らせすることとなっておりますが、お気づきの点があれば事務局にご連絡下さい。



## 第10回全国高等学校安全互助会連絡協議会総会及び研究大会(山梨大会)

令和2年10月1日・2日に山梨県甲府市のホテル談露館において、第10回全国高等学校安全互助会連絡協議会総会及び研究大会が開催されました。

本大会は、高校生等への共済事業を行っている団体相互の連携を深めるとともに、それぞれの活動の質的向上を目指して研究協議を行う大会であり、山梨大会には14団体、29名が参加しました。

開会行事、総会に引き続き、研究協議が行われました。研究協議では、北海道高等学校安全互助会の井村美彦事務局長より、「共済金の給付に係る災害の内容及びその傾向と対策について」の発表があり、続いて文部科学省前PTA等共済指導係長 吉谷正氏より「共済事業の運営に関する今後の在り方について」と題したビデオ講話がありました。次に、各団体が日頃抱えている諸課題等に関するテーマ(「共済事業の在り方と今後の展望」、「業務処理の課題」、「事例とその対応」)について、意見交換が行われました。コロナ禍ではありましたが、それぞれ各テーマに基づき、活発な協議が行われました。

次回の第11回大会は、令和3年10月7日・8日に新潟市で開催されます。

## 令和元年度 共済金給付事業について

令和元年度の共済金給付(新規)の概要(負傷等)は以下のとおりでした。

### 1 学年別

1年(39.1%) 2年(44.4%) 3年(16.5%)

### 2 場面別

授業中(10.9%) 部活動中(含試合)(79.5%)  
通学中(1.3%) その他(8.3%)

部活動での負傷が多く、内28%が試合中の負傷です。その他については主に球技大会や体育大会などの学校行事における負傷です。

### 3 競技種目別

サッカー(19.5%) 野球(16.2%)

バスケットボール(15.9%)

競技種目別の負傷上位は上記の3競技で、これは全国の傾向と同じです。

### 4 負傷部位別

膝(22.5%) 足関節(14.6%) 肩(9.6%)

負傷部位は膝が多く、治癒までに長期間を要しています。

## 助成事業報告

## 高岡南高等学校 PTA教育講演会

## ～親と子のコミュニケーション術について～

高岡南高等学校では、「健康教育及び健全育成等に対する実践活動」の取り組みとして、「PTA教育講演会」を1～3年の保護者を対象に実施しました。

この事業の概要は、多感な時期を過ごすわが子への親の関わり方を学ぶことを目的としています。講師より「コミュニケーション術・傾聴」などの教えを頂き、聴講者内で共有し、保護者の悩みを解きほぐすための支援を行うものです。

## 1. 取り組みの概要

PTA教育講演会は10月10日（土）15：00～16：10本校第1体育館にて保護者と本校の教職員が参加して実施しました。また実施の際は保護者どうしの座席間隔を空けたり、換気・手指等消毒を行ったりするなど新型コロナウイルス感染症の拡大防止の為に徹底しました。



講師に株式会社コトノハ代表取締役、フリーアナウンサーの廣川 奈美子 氏を招聘し、『気ままプラン！もっとなまに～色んなまに！』と題してお話をいただきました。まず講演の目的を理解していただくため保護者へ開催の趣旨について以下のように案内しました。「私達一人ひとりと言うまでもなく『子供達の夢への一番の応援者』であります。応援者であるご自身の本業は？仕事における職責、家族、優先順位は！？様々な重責、両立しなければという課題を抱えながらの日々であるかと存じます。応援者であるはずが、反面、時間的な部分等において、答えを急ぐあまりに、本意ではない言葉を発したこと等々のご経験や失敗談などあるかと存じます。講師である廣川氏より『コミュニケーション術・傾聴』などの教えを頂き、聴講者内での共有（私だけじゃないんだ…）や、自身の悩みを解きほぐす一助になればと考えています。」当日は、1学年69名、2学年58名、3学年27名の計154名と多くの保護者の参加者を得ることができました。

講演会では、「講師の自己紹介」、「保護者からのリクエストに答えて」、「傾聴について」の3点についてお話を頂きました。「講師の自己紹介」では担当しておられる番組のようなトークで自己紹介され、子育てをしながら仕事との両立を自らの経験を通して具体的にお話いただきました。目をつむればラジオ放送を聞いているよ

うな暖かい雰囲気、参加者一同リラックスしてお話を聞くことができました。

「保護者からのリクエストに答えて」では、予め講演前に保護者から募った質問に答える形で進みました。以下リクエストの一部ですが紹介します。

- ・仕事と家事をどのようにして両立されていますか？
- ・用件を業務連絡の様に、要点しか教えてくれませんか。このまま子供の掌の上で転がされるままでも良いものでしょうか？
- ・朝はギリギリまで寝ていて、次は髪の毛に時間をかけ始めます。お弁当作り、朝食作り、たまには手伝って欲しい。
- ・進路によって家から居なくなってしまう日がくるのかと思うと応援しなくては、と思う反面少し寂しい気がします。この気持ちはどう消化すれば良いもののでしょうか？

頷いて聞いておられる保護者も多く、苦しいときも自分たちだけではないのだと共感していました。



最後に親と子の関係で必要なスキルである「傾聴」について紹介されました。傾聴とは相手と信頼関係を構築するために必要な能力のことで、相手の考えや気持ちを的確に読み取ることで、良好な人間関係を構築できます。ロジャーズの3原則があり、それは相手の話を相手の立場に立って相手の気持ちに共感しながら理解しようとする「共感的理解」、相手の話を善悪の評価、好き嫌いの評価を入れずに聴き、その背景に肯定的な関心を持って聴く「無条件の肯定的関心」。聴き手が相手に対しても、自分に対しても真摯な態度で、真意を確認する「自己一致」を理解するとよいそうです。そして、問題解決の主体は話し手本人であることを。相手を「自分はどうしたいのか」という方向にゆっくりと導くことが大切だと話されました。

## 2. 実施を通して

この講演会は昨年度の台風の接近により中止となり、2年越しの実施となりましたが、軽妙な応答に会場は終始和やかな雰囲気に包まれていました。保護者の方々にとって大変参考になる講演会となりました。



令和元年度事業・収支決算報告

《事業》

- 1 社員総会 定時総会；令和元年 6月4日
- 2 会議 理事会 5回開催  
令和元年 5月8日、6月4日（第2回・第3回）、8月2日、令和2年 1月23日
- 3 調査研究事業 第9回全国高等学校等安全互助会連絡協議会総会及び研究大会北海道大会（令和元年10月3日・4日）  
P T A等共済法務担当者会議（令和元年6月7日、令和2年2月7日）  
全国高等学校等安全互助会連絡協議会研修会（令和元年11月22日）
- 4 安全普及事業 (1)機器の整備 A E D（65台）の定期点検（令和元年9月）  
(2)広報事業 安全振興会会報・手引書の発行及び加入案内の配布、ホームページの随時更新
- 5 助成事業 生徒の安全・健康及び健全育成に関わる実践活動への助成（24団体）
- 6 給付事業 共済金支払件数511件（負傷；507件、後遺障害；3件、義歯；1件）
- 7 香料給付事業 3件

【収支決算】 1 収入の部

(単位：円)

科目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	合計
事業活動	28,544,091	285,152	4,000,083	32,829,326
基本財産運用収入	0	0	0	0
特定資産運用収入	8,134	0	24	8,158
受入共済掛金	28,535,625	0	0	28,535,625
受入香料掛金	0	285,150	0	285,150
雑収入	332	2	4,000,059	4,000,393
投資活動	0	0	0	0
基本財産取崩	0	0	0	0
特定資産取崩	0	0	0	0
支払備金取崩	0	0	0	0
前期繰越収支差額	18,007,183	221,572	12,031,811	30,260,566
計	46,551,274	506,724	16,031,894	63,089,892

2 支出の部

(単位：円)

科目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	合計
事業活動	31,632,256	178,466	5,014,203	36,824,925
事業費	31,632,256	178,466	0	31,810,722
管理費	0	0	5,014,203	5,014,203
繰入金	0	0	0	0
投資活動	3,351,099	0	0	3,351,099
基本財産取得	0	0	0	0
特定資産取得	3,351,099	0	0	3,351,099
固定資産取得	0	0	0	0
支払備金積立	0	0	0	0
予備費	0	0	0	0
次期繰越収支差額	11,567,919	328,258	11,017,691	22,913,868
計	46,551,274	506,724	16,031,894	63,089,892

令和2年度事業・収支予算計画

《事業》

- 1 社員総会 定時総会；令和2年6月4日
- 2 会議 理事会 4回開催  
令和2年5月8日、5月25日、6月10日、令和3年1月21日
- 3 調査研究事業 第10回全国高等学校安全互助会連絡協議会総会及び研究大会山梨大会参加  
(令和2年10月1日・2日)  
P T A等共済法務担当者会議等への参加
- 4 安全普及事業 (1)機器の整備 A E D（65台）の更新（令和2年7月）  
(2)広報事業 安全振興会会報・手引書の発行及び加入案内の配布、ホームページの随時更新
- 5 助成事業 生徒の安全・健康及び健全育成等に関わる実践活動への助成
- 6 給付事業 共済金給付

【収支予算】 1 収入の部

(単位：円)

科目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	合計
事業活動	27,606,995	276,120	4,000,020	31,883,135
基本財産運用収入	0	0	0	0
特定資産運用収入	30,000	0	0	30,000
受入共済掛金	27,576,795	0	0	27,576,795
受入香料掛金	0	276,120	0	276,120
雑収入	200	0	4,000,020	4,000,220
繰入金	0	0	0	0
投資活動	25,000,000	0	0	25,000,000
基本財産取崩	0	0	0	0
特定資産取崩	10,000,000	0	0	10,000,000
支払備金取崩	15,000,000	0	0	15,000,000
前期繰越収支差額	11,946,409	170,836	10,796,623	22,913,868
計	64,553,404	446,956	14,796,643	79,797,003

2 支出の部

(単位：円)

科目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	合計
事業活動	29,848,749	284,251	6,148,000	36,281,000
事業費	29,848,749	284,251	0	30,133,000
管理費	0	0	6,148,000	6,148,000
繰入金	0	0	0	0
投資活動	35,000,000	0	0	35,000,000
基本財産取得	0	0	0	0
特定資産取得	20,000,000	0	0	20,000,000
固定資産取得	0	0	0	0
支払備金積立	15,000,000	0	0	15,000,000
予備費	100,000	0	0	100,000
次期繰越収支差額	▲395,345	162,705	8,648,643	8,416,003
計	64,553,404	446,956	14,796,643	79,797,003

《役員》

令和元年・2年度理事・監事

○理事（9名）

堀井 鉄也（理事長） 神田 聡（常務理事）  
本江 孝一 鮎田 大起 小峰 正文 小林 大助  
菅野 克志 開田 哲弘 森川 明

○監事（2名）

渡辺 誠治 吉田 明博

編集後記

今年はコロナ禍により、定時社員総会が書面審議となり、また学校も休校になるなど、これまでにない状況に直面しました。早くコロナが収束し、助成事業など活発に推進できるように願っております。

今後とも県内の高等学校等で学ぶ子どもたちの健康・安全に努めてまいりたいと存じますので、ご理解とご協力をお願いいたします。（常務理事・事務局長 神田 聡）